

令和7年3月16日 南海日々新聞

身の回りの現象学ぶ



空気の重さを体験する「マンダフルクの実験」に協力する住用町の住用中学校体育館

住用中で科学実験教室

東海市住用町の住用中学校で物理科長、生徒ら中心で3月15日、科学実験教室がありました。講師は近畿大学教授の木村謙良さん。全校生徒が参加し、さまざまな実験を楽しみながら身の回りの現象について理解を深めました。

科学実験教室は、NPO法人なにかわの会の主催。国立青少年教育振興機構から「子どもゆめ基金」の助成を受けて全国各地で実施しています。今回は回校を皮切りに、3月17日にかけて、東美大盛岡の15校で開催しました。

この日のテーマは「空気の力」と「燃えること」。木村さんは、真鍮球の重

機を使って生徒たちに空気の重さを体験させたり、異なる物質を燃やして色の違いを見せたりと、次々に実験を披露。大気圧や気体、燃焼の仕組みなどを分かりやすく解説し、「まずは興味を持って、いろんな現象を見ながら『なんですか』と覚えてみて」と語り掛りました。

理科や化学に苦手意識を持つていたという3年の橋本梨香さん(16)は「きょうはたくさん実験して、楽しく学ぶことができました。疑問が分からない現象も実験を通して理解することができました。」と感想を持って知っていました。